

IV-483

島堤の景観設計

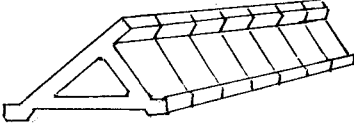
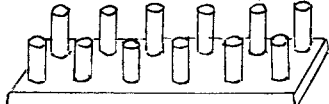
正員 三 浦 行 政

1. 意義

海岸での景観を造りだす主要構成の中で最も目立つ構造物として、意匠性を重要視するものに島堤の存在がある。海岸の維持保全上の問題に合わせて、海域周辺の景観を通しての主因を成すものとして、周囲の地形、海象や気象の様変による海面の波の挙動に伴う、総体的な景観の調和を得る手段としての基本的な事柄は、画一形のを配するよりも、それぞれが位置する場所に合った意匠設計をすることで、海岸での景観も一段とその演出が加わり、観賞上の役割としての価値も増し、構造上の機能効果と共に、景観上に与える意義として有益なものがある。5種類の島堤の意匠型式とその配置例に基づき列記する。

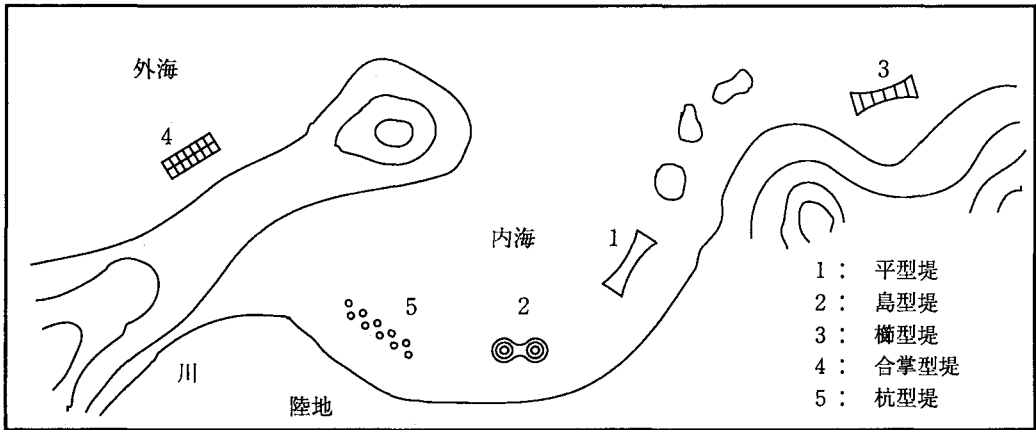
2. 型式

島堤の型式種別

番 号	型 式	模 式 図	適 所・説 明
1	平型堤		内海砂浜 内湾の砂浜 反射波を焦点に集める
2	島型堤		内海遠浅 遠浅な砂浜 自然感がある
3	楕型堤		内海磯浜 岩場の磯浜 海水を通過させる
4	合掌型堤		外海砂浜 波の荒い砂浜 三角形の中空、波返し角度 30° とする
5	杭型堤		海口石浜 川と海の交点 床盤に杭を千鳥に挿入する

3. 配置

島堤の型式配置例



4. 要点

(1) 景観の独立性としての構図

人 工 の 構 図	自 然 の 構 図
形態が主導形を有するもの 形態が対称形を有するもの 形態が連続性を有するもの	形態が従属形を有するもの 形態が非対称形を有するもの 形態が非連続性を有するもの

(2) 島堤の整合性としての条件

構 造 の 条 件	意 匠 の 条 件
波浪、潮流、漂砂、底質等の諸条件に安定していて、海生物に良い環境を提供できること	造形物としての意匠価値を有し観賞に与えるもので、周辺の風景と融合すること

5. 結論

(1) 将来への展望

今後海岸域での人工改造計画が見直されることになれば、おそらく、埋立造成方式による海面の量的制約、制限が予想されることから、海面の損失を最小限に抑えて、必要な施設のみを造り、導函によって連結する交通システムが採用されるので、これらの施設を直接に波浪から守るための消波、耐波装置が開発され、次々と種類、形を変えて登場してくるものと思われる。

(2) 経済との競合

経済社会における自然環境、景観の諸問題は経済側から見た場合、その価値を評価し難く、算定基準も他の財物と対比されると、異なった考え方によることもあって、定量算出が計上できず、経済評価損により不足が伴い、減価されるか、抹消される恐れが生ずる。この点を補足するのが景観デザインのシステムを積極的に導入することで、調整が可能となり、その進展の取扱方法が課題といえる。